

産地活性化総合対策事業の薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業(国産茶輸出拡大等促進支援事業)に関する事業評価票

1. 輸出用茶生産拡大への取組

(1) 成果目標が残留農薬低減の場合

都道府県名	事業実施主体名	受益者名	茶園面積 (a)	成分名	残留農薬値(ppm)				〔事業内容 具体的な 取組内容〕	地方農政局長の意見
					現況 (27年度)①	本年度 (30年度)	目標 (30年度)②	増減率(%) ②/①		
東京都	日本茶輸出促進協議会	(公社)静岡県 茶業会議所 担当農家 ・川根めぐり園 ・松浦永治 ・丸芝製茶協同 組合 ・伊藤雅章外5名	40a	イミダクロリド (アドマイヤー水和剤)	0.015	不検出～ 0.03	0.01	67%	未達成	主要輸出先 である米 国、EU、台 湾を対象 に、各国の 残留農薬基 準に対応で きる茶生産 を行うこと の可能性を 追求するた め、主産地 に実証圃を 設置し、輸 出先国MRL に対応する 防除基準に より茶栽培 試験を行っ た。
				ジフェノコナゾール (スコア水和剤)	0.33	0.01～0.04	0	—	未達成	
				クロルフェナピル (コテツフロアブル)	0.012	0.06～0.26	0.01	83%	未達成	
				フルアジナム (フロンサイドSC)	0.051	不検出	0	—	達成	
		(公社)京都府 茶業会議所 担当農家 ・福喜農園 ・畑 広大 ・仲東真吾	450a	ピリフルキナゾン (コルト顆粒水和剤)	0.022	不検出	0	—	達成	
				フルベンジアミド (フェニックスフロアブル)	0.013	不検出	0	—	達成	
				クラントラニリブロール (サルコムフロアブル)	0.06	0.05～0.14	0.02	33%	未達成	
				ブプロフェジン (アブロード水和剤)	0.2	不検出	0.05	25%	達成	
		(公社)鹿児島県 茶業会議所 担当農家 ・西馬場農園 ・菅原農園 ・蔵菌農園 ・田之上農園 ・いろは農園	360a	クロルフェナピル (コテツフロアブル)	0.02	0.022	0.01	50%	未達成	
				テブコナゾール (オンリーワン)	0.03	不検出	0	—	達成	
				アゾキシストロピン (アミスター20)	0.19	不検出	0.1	50%	達成	
				ブプロフェジン (アブロード水和剤)	0.29	不検出	0.05	17%	達成	
		計	850a						12成分のうち7成 分が達成できた。	

注1:「本年度」の欄は、事業実施年度に取り組んだ残留農薬値を記入すること。

2:適宜、行を追加して記入すること。

* 達成度は実績値と目標値の比較による。実績値に幅がある場合、最大値を用いる。

(2) 成果目標が新たな商品開発の場合

都道府県名	事業実施主体名	受益者名	到達目標	新たな商品開発の具体的な取組内容	地方農政局長の意見
東京都	日本茶輸出促進協議会	茶生産者	高級茶葉(玉露など)を使用し味に特徴を持たせた新しいペットボトル茶と、これまで被覆栽培があまり行われていなかった地域において新たに生産する「富士山抹茶」の商品開発。	上級茶を原料とした緑茶ドリンクを試作。当初は最高級煎茶である「玉露」の使用を検討したが、長期的な原料供給に問題があることから、市価1万円/kgの原料茶を使用し、今年度から製造された「富士山抹茶」を加え、コクと味をアップさせた。試作を依頼した静岡県JAフーズは、これをヒントに、業界では使われないレベルの原料茶と抹茶を使用したドリンクを開発し、JRを中心に販売を始めた。	成果目標を達成している。

注1: 適宜、行を追加して記入すること。

2. 国内マーケット創出のための高品質・低コスト生産への取組

(2) 成果目標が新たな商品開発の場合

都道府県名	事業実施主体名	受益者名	到達目標	新たな商品開発の具体的な取組内容	地方農政局長の意見
東京都	日本茶輸出促進協議会	(公社)静岡県茶業会議所 担当農家 ・伊藤雅章 ・森 光広 ・井出剛彦 ・鈴木崇史 ・斉藤公和	内需及びインバウンド需要を中心とした調査結果をもとに新たな茶商品を1点開発する。	国内マーケット需要及びインバウンド需要に対し、消費動向等調査結果に対応した新たな茶商品(上質茶使用ドリンク)を開発。 【サンプル】 ①4000円/kgの原料を使い、浸出液に「富士山抹茶」を加えたもの。 ②700円/kgの原料茶(現在流通しているドリンクの平均的原料価格)使用 ③市販の「おーいお茶」 【新たな茶商品開発】 国内は元より、海外での消費に対して「急須」が必須条件とすることの無理を排し、普及し易い商品とする必要から、恰も個別の急須と言える「テトラパック型ナイロン紗」のティーバッグに上質茶を充填したものを試作。 試作したティーバッグについて、その場で飲ませる予定であったが、ホテル・フロントでの手渡しであった為、残念ながら茶に対する評価は得ることができなかった。	試作したティーバッグの評価が得られず商品開発に繋がらなかったことから、成果目標を達成することが出来なかった。 改善計画書の提出を求め、引き続き目標達成に向け努力するよう指導を行うこととする。

注1: 適宜、行を追加して記入すること。

3. 茶産地育成に向けた生産体制強化への取組

都道府県名	事業実施主体名	受益者名	現況 ① (被害発生年度: 年度) ① ＜事業導入前＞		本年度(30 年度)		目標(30 年度) ②		増減率(%) ②/①		事業内容 【具体的な 取組内容】	地方農政局長の意見
			防霜施設 稼働面積(a)	単収 (kg/10a)	防霜施設 稼働面積(a)	単収 (kg/10a)	防霜施設 稼働面積(a)	単収 (kg/10a)	防霜施設 稼働面積	単収		
			静岡県	ハイナン農業協同組合	名波 靖功 【イヤマタ名波製茶】	1100	295	1122.5	580	1122.5		
		名波 利幸	500	375	509.4	552	509.4	394	102	105		
		小笠原 一之	300	330	340.9	614	340.9	347	114	105		
			1900	1000	1972.8	1746	1972.8	1051	104	105		

注1: 現況は、一番茶について凍霜害による被害が生じた直近の年度を記載すること。なお、被害発生年度が複数年度ある場合には、被害程度がより大きい年度を記載する。

2: 成果目標は一番茶について記載すること。

3: 単収は、荒茶数量又は生葉収量で記載すること。